人間関係研究（南山大学人間関係研究センター紀要）, 14, 241-274.

■　資料

日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト（2014）

坂　中　正　義
（南山大学人文学部心理人間学科）

要約

本論文は、2014年に発表された、わが国におけるパーソンセンタード・アプローチ関連の文献リストである。文献は、非指示的カウンセリング、来談者中心療法、パーソンセンタード・セラピー、パーソンセンタード・アプローチ、ベーシック・エンカウンター・グループ、フォーカシング、体験過程療法、フォーカシング指向心理療法、積極的傾聴法等に関するものである。収録は「来談者中心療法」「ベーシック・エンカウンター・グループ」「体験過程療法・フォーカシング」「その他」ごとに、A. 書籍、B. 研究論文、C. 学会発表、D. 翻訳、E. 海外文献紹介、F. 書評のジャンルに分けて行っている。

キーワード：来談者中心療法、パーソンセンタード・セラピー、パーソンセンタード・アプローチ、ベーシック・エンカウンター・グループ、フォーカシング、体験過程療法、フォーカシング指向心理療法、文献リスト

はじめに

筆者は、わが国における「来談者中心療法」関連の研究および実践を振り返り、今後の発展のための課題探索の１つの手がかりを提供するため、次のような文献リストを作成した。

１．坂中正義　1998　日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト ―ロジャース選書及び全集―　九州大学心理臨床研究, 17, 113-121.
２．坂中正義　1998　日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に

関する文献リスト（～1969）　福岡教育大学「心理教育相談研究」, 2, 9-31.
3．坂中正義　1998　日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（1970～1974）　福岡教育大学「教育実践研究」, 6, 81-88.
4．坂中正義　1998　日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（1975～1979）　福岡教育大学「教育実践研究」, 6, 89-98.
5．坂中正義　1999　日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（1980～1984）　福岡教育大学紀要（教職科編）,48, 195-214.
6．坂中正義　1999　日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（1985～1989）　福岡教育大学「教育実践研究」, 7, 115-132.
7．坂中正義　1999　日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（1990～1994）　福岡教育大学「心理教育相談研究」,3, 13-51.
8．坂中正義　2000　日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（1995～1999）　福岡教育大学「心理教育相談研究」,4, 13-55.
9．坂中正義　2001　日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2000）　福岡教育大学「心理教育相談研究」, 5, 23-56.
10. 坂中正義　2002　日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2001）―第Ⅰ部：来談者中心療法―　福岡教育大学「心理教育相談研究」, 6, 51-68.
11. 坂中正義　2002　日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2001）―第Ⅱ部：ベーシック・エンカウンター・グループ、第Ⅲ部：体験過程療法・フォーカシング、第Ⅳ部：その他―　福岡教育大学「心理教育相談研究」, 6, 69-85.
12. 坂中正義　2003　日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2002）　福岡教育大学「心理教育相談研究」, 7, 1-22.
13. 坂中正義　2004　日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2003）　福岡教育大学「心理教育相談研究」, 8, 31-50.
14. 坂中正義　2005　日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2004）　福岡教育大学「心理教育相談研究」, 9, 17-36.
15. 坂中正義　2006　日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2005）　福岡教育大学「心理教育相談研究」, 10, 1-24.
16. 坂中正義　2007　日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2006）　福岡教育大学「心理教育相談研究」, 11, 1-20.
17. 坂中正義　2008　日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2007）　福岡教育大学「心理教育相談研究」, 12, 1-24.
18. 坂中正義　2009　日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2008）　福岡教育大学「心理教育相談研究」, 13, 9-29.
19. 坂中正義　2010　日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」

に関する文献リスト（2009） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 14, 27-50.
20. 坂中正義 2011 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2010） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 15, 29-50.
21. 坂中正義 2012 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2011） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 16, 1-20.
22. 坂中正義 2013 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2012） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 17, 1-23.
23. 坂中正義 2014 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2013） 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 13, 231-255.

本論文では、これらの論文の続編として、2014年の日本における「来談者中心療法」関連の文献リストを作成する。また、これまでのリストに漏れていたものを追録する。

なお、近年のロジャーズへの関心の高まりから、パーソンセンタード・アプローチという、カウンセリングを含みつつも、そこに留まらない実践の広がりについても、ある程度理解が深まってきたと考えられる。また、個人カウンセリングにおいてはパーソンセンタード・セラピーやフォーカシング指向心理療法という名称も認識されつつある。よって、今回より論文のタイトルを、収集している文献の範囲により適切であろうと考えられる「日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト」と変更することとした。

方法

2014年に発行されたパーソンセンタード・アプローチ関連の以下のようなキーワードが論じられている文献が収集された。

非指示的カウンセリング、来談者中心療法、パーソンセンタード・セラピー、パーソン・センタード・アプローチ、ベーシック・エンカウンター・グループ、フォーカシング、体験過程療法、フォーカシング指向心理療法、積極的傾聴法、人間中心の教育等。

分類方法は、文献を「来談者中心療法」「ベーシック・エンカウンター・グループ」「体験過程療法・フォーカシング」「その他」の４部に分類し、それぞれ、A.書籍、B.研究論文[1]、C.学会発表、D.翻訳、E.海外文献紹介、F.書評に分けて収録した。さらに、各部ごとに2014年の動向や代表的な文献を紹介した。

[1] 研究論文には便宜上、ニュースレター等も含めている。

文献は、できるだけ手広く収集を努めたが、不備も予想される。それらについては、指摘をまって、今後の文献リストシリーズの中で、訂正、追加、補足したい。

第Ⅰ部：来談者中心療法

「第Ⅰ部：来談者中心療法」には関連文献のうち、来談者中心療法、来談者中心遊戯療法、パーソンセンタード・セラピーといった個人カウンセリングや「自己一致」「共感的理解」「無条件の積極的関心」「アクティブリスニング」などの基礎概念、歴史、人物等が論じられているものを収録した。

2014年の概要は次のとおりである。「A.書籍」は４本であった。そのうち１つが単行本であった。「B.研究論文」は27本であった。そのうち１つの特集があった。「C.学会発表」は22本であった。そのうち２つのシンポジウムがあった。「D.翻訳」は２本であった。「E.海外文献紹介」は１本であった。「F.書評」は６本であった。

2014年の「来談者中心療法」の特徴は、B-15をはじめとするRogersの中核条件についての文献が多く刊行されたこと、パーソンセンタード・セラピーに関わるシンポジウム（C-12、C-13）が開催されたことであろう。

B-15は、人間性心理学研究の特集である。ロジャーズの中核３条件について、クライエント中心療法の立場から再考したのち（B-21）、パーソンセンタード／フォーカシング指向セラピー（Ⅲ-B-25）、パーソンセンタード表現アートセラピー（Ⅳ-B-1）、ゲシュタルト療法（B-9）、プロセスワーク（B-1）のそれぞれの立場からロジャーズの中核三条件について論考している。このような特集が組まれること自体、ロジャーズへの注目が高まっていることを示していよう。この特集は次号で続編が予定されており、2015年も中核三条件の検討が１つの特徴となるだろう。

C-12、C-13はいずれもパーソンセンタード・セラピーに関わるシンポジウムで、近年継続開催されている。C-12はライブ面接を中心に、C-13は事例検討を中心に発表された。特にC-13は「自己一致」をテーマに展開しており、やはり、中核三条件を中心にすえた流れがここからも伺える。

なお、2014年は「人間性心理学研究」に７本（B-1, B-6, B-9, B-11, B-15, B-21, F-2）、「心理臨床学研究」に１本（F-6）、関連文献が掲載されている。

A．書籍

1．諸富祥彦　2014　新しいカウンセリングの技法―カウンセリングのプロセスと具体的な進め方―　誠信書房

第１章　はじめて学ぶ人のために ①―あらゆるカウンセリングの基本

第２章　はじめて学ぶ人のために ②―よい「傾聴」の基本姿勢

第３章　カウンセリングの基本的な流れ―カウンセリングのプロセスは「三段階方式」

第４章　六つの種類のカウンセリング・プロセス
第５章　面接の前に―カウンセリングの「五つの枠」を整えておく
第６章　いよいよ開始！―受付時とインテークで聴いておくべきポイント
第７章　初期の面接の技法
第８章　クライアントの理解を深めるために―面接記録の作成とスーパービジョン
第９章　中期の面接の技法
第10章　ケース理解を深める
第11章　後期の面接の技法
第12章　カウンセリングの終結
第13章　カウンセリング学習における「技法」の位置づけ

2．諸富祥彦　2014　カール・ロジャーズ①　諸富祥彦編「カウンセリング/臨床心理学を学ぶ人のための伝説のセラピストの言葉」コスモス・ライブラリー, 132-133.
3．末武康弘　2014　カール・ロジャーズ②～⑧　諸富祥彦編「カウンセリング/臨床心理学を学ぶ人のための伝説のセラピストの言葉」コスモス・ライブラリー, 134-147.
4．上嶋洋一　2014　カール・ロジャーズ⑨～⑱　諸富祥彦編「カウンセリング/臨床心理学を学ぶ人のための伝説のセラピストの言葉」コスモス・ライブラリー, 148-167.

B.研究論文

1．青木 聡　2014　プロセスワークの立場からみたロジャーズの“三条件”　人間性心理学研究, 32(1), 37-43.
2．傳田容示子　2014　学び直し　セルフ《自立》カウンセリング研究所所報「白樺」, 71, 8-9.
3．橋本忠行　2014　ものすごくリアルで、ありえないほど近い（Extremely real and Incredibly close）　日本人間性心理学会ニュースレター, 82, 2.
4．平木典子　2014　1960年代のアメリカ　心理学ワールド, 64, 39.
5．兵頭孝子　2014　このごろ　セルフ《自立》カウンセリング研究所所報「白樺」, 71, 14-15.
6．金子周平　2014　ロジャーズの“三条件”のエッセンスはセラピーの共通因子となりうるか―特集にあたって―　人間性心理学研究, 32(1), 1-3.
7．加藤 薫　2014　大須賀克己先生との再会　日本グロースセンター「グロース」, 147.
8．河﨑俊博・池見 陽　2014　非指示的心理療法の時代に観られるCarl RogersのReflectionという応答　関西大学臨床心理専門職大学院紀要「サイコロジスト」, 4, 21-30.

9. 倉戸ヨシヤ　2014　ロジャーズとパールズ―私に与えたインパクト―　人間性心理学研究, 32(1), 27-35.
10. 桑野浩明・木下初子　2014　学校現場におけるスクールカウンセラーの純粋性に基づく姿勢からのコラボレーション　東亜大学大学院総合学術研究科臨床心理学専攻紀要「東亜臨床心理学研究」, 13(1), 29 40.
11. 本山智敬　2014　傾聴と信頼―「一致」に焦点を当てて―　人間性心理学研究, 31(2), 215-222.
12. 村山正治　2014　ロジャースの思い出―カウンセリングから世界平和プロジェクトへ―　心理学ワールド, 66, 39.
13. 中村季子　2014　カウンセリングとともに　日本グロースセンター「グロース」,　147.
14. 中田行重　2014　パーソン・センタード・セラピーの現状と今後―英国とドイツ訪問から考えたこと―　人間性心理学研究, 31(2), 233-236.
15. 日本人間性心理学会編　2014　特集：さまざまな立場からみたロジャーズの“三条件”　人間性心理学研究, 32(1), 1-43.
ロジャーズの“三条件”のエッセンスはセラピーの共通因子となりうるか―特集にあたって―（金子周平）
クライエント中心療法におけるロジャーズの中核三条件（坂中正義）
パーソンセンタード／フォーカシング指向セラピーからみた中核条件の意義（末武康弘）
パーソンセンタード表現アートセラピーにおけるロジャーズの三条件（濱中寛之）
ロジャーズとパールズ―私に与えたインパクト―（倉戸ヨシヤ）
プロセスワークの立場からみたロジャーズの“三条件”（青木 聡）
16. 野島一彦　2014　コメント：佐治守夫の三編について―佐治先生の思い出―先達から学ぶ精神療法の世界（精神療法増刊第１号）, 金剛出版, 63-64.
17. 岡 昌之　2014　クライエント中心療法とユーモア　日本心理臨床学会「心理臨床の広場」, 7(1), 34-35.
18. 岡村達也　2014　幾度もロジャーズの名を―EST/EBP/CBT時代の中で―カウンセリング, 46(1), 5-13.
19. 大島利伸　2014　中部部会活動報告：坂中正義氏の講演会を通して学んだこと　日本人間性心理学会ニュースレター, 81, 6.
20. 斉藤暁子・多和千里・矢嶋文哉・野島一彦　2014　大学院授業における「積極的傾聴」の実習体験の報告と考察　跡見学園女子大学文学部臨床心理学科紀要, 2, 77-89,
21. 坂中正義　2014　クライエント中心療法におけるロジャーズの中核三条件　人間性心理学研究, 32(1), 5-11.
22. 関川紘司　2014 「一致」について　セルフ《自立》カウンセリング研究所

所報「白樺」, 70, 2-3.

23. 下山晴彦　2014　佐治守夫の三編　先達から学ぶ精神療法の世界（精神療法増刊第１号）, 金剛出版, 57-62.
24. 下山晴彦　2014　リコメント　先達から学ぶ精神療法の世界（精神療法増刊第１号）, 金剛出版, 65-66.
25. 田畑 治　2014 「後世への最大遺産」を共に探究しよう　日本人間性心理学会ニュースレター, 82, 4.
26. 徳田完二　2014　認知的側面に焦点をあてたロールプレイの一例―初学者教育における試み―　立命館人間科学研究, 30, 77-85.
27. 都能美智代　2014　PCAの国際学会に参加して　日本人間性心理学会ニュースレター, 82, 5.

C.学会発表

1. 池辺さやか　2014　課題固有の自己効力感と特性的自己効力感の検討―関係性モデル図の作成を通して―　日本人間性心理学会第33回大会プログラム・発表論文集, 164-165.
2. 泉野淳子　2014 「必要十分条件」論文（C.R.Rogers, 1957）の再々検討（その5）　日本心理学会第78回大会プログラム , 67.
3. 金子周平　2014　ヒューマニスティック・アプローチにおける指示と非指示―我が道の歩き方が分からないといううつ病女性の事例―　日本心理臨床学会第33回秋季大会発表論文集, 197.
4. 桑野浩明　2014　心理療法的空間を創るためのセラピストの内的過程に関する一考察―ある種の青年期心理療法の体験から―　日本心理臨床学会第33回秋季大会発表論文集, 149.
5. 斉藤暁子・多和千里・野島一彦　2014　大学院授業における「積極的傾聴」の実習体験の報告と考察　日本人間性心理学会第33回大会プログラム・発表論文集, 58-59.
6. 村山正治　2014　招待講演：大学院生の指導・養成・訓練をめぐって―私の作法―　日本カウンセリング学会第47回大会発表論文集, 16.
7. 中田行重　2014　“無条件の肯定的配慮”再考　日本人間性心理学会第33回大会プログラム・発表論文集, 132-133.
8. 中田行重　2014　PCTのセラピストの内面の動きと表出、およびクライエントの変化―音声/逐語記録により当時と現在のセラピストの感じ方の比較を基にする事例研究　日本心理臨床学会第33回秋季大会発表論文集, 69.
9. 中山幸輝　2014　勝ちにこだわる中学生男子とのプレイセラピー―イニシャルケースにおけるセラピストの内面を通して―　日本人間性心理学会第33回大会プログラム・発表論文集, 66-67.
10. 日本カウンセリング学会（第47回大会）2014　大会準備委員会企画シンポジ

ウム：カウンセリングの多様性と統合性　日本カウンセリング学会第47回大会発表論文集, 24.

パーソンセンタード・アプローチ（PCA）の立場から（安部恒久）

11. 日本学生相談学会（第32回） 2014　シンポジウム：多角的ケース検討　日本学生相談学会第32回大会プログラム, 21.

コメンテーター：PCAの立場から（岡村達也）

12. 日本人間性心理学会（第33回） 2014　自主企画：パーソン・センタード・セラピーによりクライアントおよびセラピストの内面で起こる動き　日本人間性心理学会第33回大会プログラム・発表論文集, 52-53.

企画者（中田行重）

話題提供者（永野浩二・大石英史・森川友子・村山尚子）

指定討論者（村山正治）

13. 日本心理臨床学会（第33回秋季大会） 2014　大会シンポジウム発表　日本心理臨床学会第33回秋季大会発表論文集, 31.

司会者（三國牧子）

PCTのセラピストの内面の動きと表出、およびクライエントの変化―音声/逐語記録により当時と現在のセラピストの感じ方の比較を基にする事例研究―（中田行重）

セラピストの「自己一致」がクライエントに何をもたらすか―カウンセリングを終わらせる決意をし、職場適応を図った中年男性の事例―（大石英史）

指定討論者（伊藤研一）

14. 野島一彦　2014　私にとってのPerson-Centered Approach　日本人間性心理学会第33回大会プログラム・発表論文集, 26-27.

15. 大石英史　2014　セラピストの「自己一致」がクライエントに何をもたらすか―カウンセリングを終わらせる決意をし、職場適応を図った中年男性の事例―　日本心理臨床学会第33回秋季大会発表論文集, 70.

16. 岡 昌之　2014　招待講演：カウンセリングの発想と実践　日本カウンセリング学会第47回大会発表論文集, 15.

17. 斧原 藍・白崎愛理・中西達也・中田行重　2014　初学者はパーソン・センタード・セラピーをどう見ているか―教育・訓練および理論への示唆を求めて―　日本心理臨床学会第33回秋季大会発表論文集, 317.

18. 坂井祐円　2014　心理臨床における生成概念のゆくえ　日本人間性心理学会第33回大会プログラム・発表論文集, 116-117.

19. 角 隆司・須藤亜弥子・船曳奈央・中井美彩子・岩井佳那・越川陽介・中田行重　2014　PCAを軸とした初心者セラピストのための体験合宿の試み　日本人間性心理学会第33回大会プログラム・発表論文集, 60-61.

20. 田畑 治　2014　特別講演：私のカウンセリングとのかかわりの半世紀と展望―教育訓練・学習、実践・研究、スーパービジョン、資格―　日本カウンセ

リング学会第47回大会発表論文集, 14.

21. 田中寿夫　2014　試行カウンセリング場面におけるカウンセラーの共感的失敗に関するプロセス研究　日本心理臨床学会第33回秋季大会発表論文集, 221.
22. 臼井嘉介・田中寿夫・千葉浩彦　2014　カウンセラーの「聴く姿勢」がクライエントの「役に立った出来事」体験に及ぼす影響についてのプロセス研究　日本心理臨床学会第33回秋季大会発表論文集, 604.

D.翻訳

1．有山英子　2014　プラウティの体験2：Prouty, G., Van Werde, D., & Portner, M.（2002）Pre-Thetapy: Teaching Contact-Impaired Clients. Ross-on-Wye, PCC Books.　セルフ《自立》カウンセリング研究所所報「白樺」, 70, 4-7.
2．有山英子　2014 プラウティの体験3：Prouty, G., Van Werde, D., & Portner, M.（2002）Pre-Thetapy: Teaching Contact-Impaired Clients. Ross-on-Wye, PCC Books.　セルフ《自立》カウンセリング研究所所報「白樺」, 71, 4-7.

E.海外文献紹介

1．三 國 牧 子　2014　Client Issues in Counselling and Psychotherapy. Sage Publications.　日本人間性心理学会ニュースレター, 82, 5.

F.書評

1．仁田公子　2014 「Burry, Pamela J.（末武康弘監修 青葉里知子・堀尾直美共訳）『グロリアと3人のセラピスト」を考える―「グロリアと3人のセラピスト」とともに生きて：娘による追想―』コスモス・ライブラリー」 The Focuser's Focus, 17(1), 7-8.
2．金子周平　2014 「Burry, Pamela J.（末武康弘監修 青葉里知子・堀尾直美共訳）『グロリアと3人のセラピスト」を考える―「グロリアと3人のセラピスト」とともに生きて：娘による追想―』コスモス・ライブラリー」 人間性心理学研究, 32(1), 103-104.
3．下山晴彦　2014 「近藤邦夫他編 2007『臨床家 佐治守夫の仕事１［論文編］関係の中での治療』明石書店」 先達から学ぶ精神療法の世界（精神療法増刊第１号）, 金剛出版, 57-58.
4．下山晴彦　2014 「佐治守夫 1966『カウンセリング入門』国土社」 先達から学ぶ精神療法の世界（精神療法増刊第１号）, 金剛出版, 58-60.
5．下山晴彦　2014 「佐治守夫・岡村達也・保坂 亨著　1996 『カウンセリングを学ぶ―理論・体験・実習―』 東京大学出版会」 先達から学ぶ精神療法の世界（精神療法増刊第１号）, 金剛出版, 60-62.
6．津川律子　2014 「Burry, Pamela J.（末武康弘監修 青葉里知子・堀尾直美

共訳)『グロリアと3人のセラピスト」を考える―「グロリアと3人のセラピスト」とともに生きて：娘による追想―』コスモス・ライブラリー」 心理臨床学研究, 32(1), 148-149.

付：同リスト（～2013)「第Ⅰ部：来談者中心療法」の追録

A.書籍

1．会沢信彦　2011　実録！ 傾聴の体験学習　諸富祥彦編『人生にいかすカウンセリング―自分を見つめる　人とつながる―』有斐閣, 76-89.
2．大竹直子　2011　傾聴の基本的な態度と技法　諸富祥彦編『人生にいかすカウンセリング―自分を見つめる　人とつながる―』有斐閣, 45-60.
3．大友秀人　2011　傾聴技法・紙上応答演習　諸富祥彦編『人生にいかすカウンセリング―自分を見つめる　人とつながる―』有斐閣, 60-75.
4．桜本洋樹　2011　試行カウンセリングの実際　諸富祥彦編『人生にいかすカウンセリング―自分を見つめる　人とつながる―』有斐閣, 89-101.
5．清水幹夫　2011　傾聴の意義　諸富祥彦編『人生にいかすカウンセリング―自分を見つめる　人とつながる―』有斐閣, 31-45.

B.研究論文

1．阿相金彌　1997　友田不二男先生との出会い　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 16, 12-14.
2．阿相金彌　2007　亀山山荘の思い出―在りし日の友田先生と偲びながら―　日本カウンセリング・センター「カウンセリング研究」, 23, 23-25.
3．藤野和子　1997　傘寿のキャメル　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 16, 91-94.
4．藤野和子　2007　はぐれ蝶　日本カウンセリング・センター「カウンセリング研究」, 23, 25-29.
5．後藤アイ　2007　友田先生へ　二つのご報告　日本カウンセリング・センター「カウンセリング研究」, 23, 36-42.
6．後藤溶三　1997　あの時から　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 16, 10-11
7．原田義弘　1997　どえらいところに来たものだ　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 16, 71-72.
8．早野久子　1997　ユニークなユニークなラブレター　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 16, 73-87.
9．早野久子　2007　ただいま、修行中〔Ⅱ〕～天地返し～　日本カウンセリング・センター「カウンセリング研究」, 23, 29-35.
10．平河内健治　1997　カウンセリングと言語学―それ言は吹に非ざる也　日本

カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 16, 15-20.
11. 平河内健治　1999　ロジャーズのカウンセリングの条件―原文と飜訳との比較から学ぶ―　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 17･18合併号, 106- 116.
12. 平河内健治　2007　ご挨拶　日本カウンセリング・センター「カウンセリング研究」, 23, 1-２.
13. 平野正敏　1997　掌の中の風　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 16, 88-90.
14. 本多シズエ　1997　傘寿の友田不二男先生へ　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 16, 6.
15. 石井要子　2013　一級カウンセラー資格取得者によるミニ講演：カウンセラーとしての思い　カウンセリング, 45(2), 5-10.
16. 井澤英悦　2007　友田先生との出会い　日本カウンセリング・センター「カウンセリング研究」, 23, 54-58.
17. 伊東 博　1997　傘寿を祝す　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 16, 3-5.
18. 川村朗子　2007　クライエントから学ぶ　日本カウンセリング･センター「カウンセリング研究」,23, 61-67.
19. 北村俊輔　2009　交流分析理論を応用した非言語を媒体とするコミュニケーション法　奈良大学大学院研究年報, 14, 171-176.
20. 北西憲二　2013　受容をめぐる問題　精神療法, 39(6), 5-11.
21. 小林秀子　2013　カール・ロジャーズに学んで―私のカウンセリング―　カウンセリング, 45(2), 11-14.
22. 工藤和仁　1997　『暗在系からのメッセージ』　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 16, 55-58.
23. 工藤和仁　1999　カウンセラーの資格はクライエントから　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 17･18合併号, 85-89.
24. 工藤和仁　2007　友田先生とロージャズ　日本カウンセリング･センター「カウンセリング研究」, 23, 67-73.
25. 河合吉之　2007　亀山山荘と御葉書一通　日本カウンセリング･センター「カウンセリング研究」, 23, 49-54.
26. 松本重一　1997　物の世界と心の世界　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 16, 95-99.
27. 三宅義凞　1997　老い易く学成り難し　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 16, 28-29.
28. 宮本真巳　2005　感情を「読み書き」する力―エモーショナル・リテラシー, 自己一致、違和感の対自化―　精神科看護, 32(9), 18-27.
29. 水野 明　1997　何ができないのか　日本カウンセリングセンター「カウンセ

リング研究」, 16, 100.
30. 諸富祥彦　1999　真空とトランスパーソナル・カウンセリング　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 17·18合併号, 48.
31. 諸富祥彦　2013　カウンセリングにおける「受容」の真の意味とは―クライエント中心／フォーカシング指向心理療法の立場から―　精神療法, 39(6), 25-30.
32. 諸富祥彦　2004　何が人を癒すのか : 心理療法の根底にあるもの　心身医学 44(11), 861.
33. 村松司叙　2011　大須賀発藏氏との出会いと別れ　メンタル・ケアネットワーク, 182, 2-3.
34. 長屋成明　1997　友田不二男先生のご長寿を祈念して　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 16, 22-25.
35. 中本裕子　1997　食べるということ（その2）―亀山の野菜が教えてくれたこと―　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 16, 66-71,
36. 日本カウンセリング・センター編　1997　友田不二男先生傘寿祝記念特集号 日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 16, 1-108.
ご挨拶（山口ゆき）
傘寿を祝す（伊東 博）
傘寿の友田不二男先生へ（本多シズエ）
第1部　北から南から
傘寿のお祝（熊本陽子）
友田先生と私（坂本 礼）
あの時から（後藤溶三）
友田不二男先生との出会い（阿相金彌）
カウンセリングと言語学―それ言は吹に非ざる也（平河内健治）
友田不二男先生とわが人生（大沢 博）
友田不二男先生のご長寿を祈念して（長屋成明）
拝謝―取り組みを通して（鈴木喜代三）
老い易く学成り難し（三宅 義 ）
乾為天（高橋幸夫）
“矯正カウンセリング”との出会いから（田中 茂）
夢のまた夢（佐世省吾）
＜老子読本＞（岩本泰行）
第2部 目白・亀山で学ぶ
友田不二男先生と学んで（小坂田玲子）
平易語盲信主義が崩れ去った日（小野幸子）
暗在系からのメッセージ（工藤和仁）
友田先生傘寿おめでとうございます（佐伯栄三）

十牛図で思ったこと（竹田雅子）
カウンセリングと西洋医学のはざま（高津一夫）
食べるということ―亀山の野菜が教えてくれたこと（中本裕子）
どえらいところに来たものだ（原田義弘）
ユニークなユニークなラブレター（早野久子）
掌の中の風（平野正敏）
傘寿のキャメル（藤野和子）
物の世界と心の世界（松本重一）
何ができないのか（水野 明）
「モモ」に出合って（吉田光子）
傘寿を祝われて（友田不二男）

37. 日本カウンセリング・センター　1999　法人設立40周年記念特集号　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 17･18合併号, 1-119.
ご挨拶（佐伯榮三）
巻頭私言（友田不二男）
第Ⅰ部　記念式典の記録
第Ⅱ部　1.シンポジウムの記録
2.シンポジウムの要旨
第Ⅲ部　特別寄稿
1. 44年を回顧して（友田冨美）
2. 私のカウンセリング遍路歴程（田中 茂）
3. 前座ばなし　その４（鈴木喜代三）
4. カウンセラーの資格はクライエントから（工藤和仁）
5. カウンセリングの発展―心と生命科学―（佐世省吾）
6. 衰退していく人間（大沢 博）
7. 肉体と心（高津一夫）
8. 学道の用心（橋 幸夫）
9. カウンセリングと私（後藤溶三）
10. 不登校児童生徒と養育者とのカウンセリングについて（後藤溶三）
11. ロジャーズのカウンセリングの条件（平河内健治）
12.「雑感」（三宅 義凞）
13. センター設立40周年記念行事を終わって（山口ゆき）

38. 日本カウンセリングセンター編　1999　法人設立40周年記念式典　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 17･18合併号, 9-14.

39. 日本カウンセリングセンター編　1999　記念シンポジウム: 日本のカウンセリング―これまでとこれから―　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 17･18合併号, 15-47.

司会（佐伯榮三）
シンポジスト(友田不二男・生方 薫・平河内健治・諸富祥彦）
40. 日本カウンセリング・センター編　2007　友田不二男先生追悼特集　日本カウンセリング・センター「カウンセリング研究」, 23, 1-81.
ご挨拶（平河内健治）
自然にそむけば人間らしくなくなる（大沢 博）
話し合うこと　出会うこと（高橋幸夫）
友田先生のご遺志を継いで（佐世省吾）
悼惜（柳川 実）
亀山山荘の思い出―在りし日の友田先生と偲びながら―（阿相金彌）
はぐれ蝶（藤野和子）
ただいま、修行中〔Ⅱ〕～天地返し～（早野久子）
時間（高津一夫）
友田先生へ　二つのご報告（後藤アイ）
「私達は大分でこんなことをしています」大分エンデの会（大塚俊博・富田博重・後藤アイ・宮添邦子・安東愛美・隅井寿賀子）
亀山山荘と御葉書一通（河合吉之）
友田先生との出会い（井澤英悦）
四、五分のこと思いだす年の暮（中村 泉）
クライエントから学ぶ（川村朗子）
友田先生とロージャズ（工藤和仁）
海外での友田不二男氏の評価（末武康弘）
41. 西園昌久　2013　治療者と患者の2つの受容―「悲哀の仕事」と「記憶の書き換え」―　精神療法, 39(6), 76-77.
42. 大沢 博　1997　友田不二男先生とわが人生　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 16, 21-22.
43. 大沢 博　1999　衰退していく人間　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 17･18合併号, 92-95.
44. 岡村達也　2013　理事長代理 開会のあいさつ　カウンセリング, 45(2), 3-4.
45. 小野幸子　1997　平易語盲信主義が崩れ去った日―木曜日の夜　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 16, 54-55.
46. 小坂田玲子　1997　友田不二男先生と学んで　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 16, 51-54.
47. 佐伯栄三　1997 「友田先生傘寿おめでとうございます！」 日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 16, 59.
48. 佐伯榮三　1999　ご挨拶　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 17･18合併号, 2.
49. 坂本 礼　1997 “友田先生と私” 日本カウンセリングセンター「カウンセリ

ング研究」, 16, 8-9.
50. 佐世省吾　1997　夢のまた夢　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 16, 37-41
51. 佐世省吾　1999　カウンセリングの発展―心と生命科学―　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 17･18合併号, 89-92.
52. 佐世省吾　2007　友田先生のご遺志を継いで　日本カウンセリング・センター「カウンセリング研究」, 23, 15-19.
53. 掌風生　1997　色違い　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 16, 50.
54. 末武康弘　2007　海外での友田不二男氏の評価　日本カウンセリング・センター「カウンセリング研究」, 23, 73-81.
55. 鈴木喜代三　1997　拝謝…“取り組み”を通して　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 16, 25-28.
56. 鈴木喜代三　1999　前座ばなし　その４　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 17･18合併号, 82-85.
57. 高橋幸夫　1997　乾為天　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 16, 30-34.
58. 高橋幸夫　2007　話し合うこと　出会うこと　日本カウンセリング・センター「カウンセリング研究」, 23, 9-14.
59. 高津一夫　1997　カウンセリングと西洋医学のはざま　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 16, 64-65.
60. 高津一夫　2007　時間　日本カウンセリング・センター「カウンセリング研究」, 23, 35-36.
61. 竹田雅子　1997　十牛図で思ったこと　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 16, 60-64.
62. 田中 茂　1997　“矯正カウンセリング”との出会いから―山口刑務所における集団カウンセリングの経験に学んで―　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 16, 35-36.
63. 田中 茂　1999　私のカウンセリング遍路歴程　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 17･18合併号, 77-82.
64. 谷澤祐子・小林三千夫・勅使河原由季・長尾優里　2013　トライアル・カウンセリングの「クライエント体験」報告とその考察　跡見学園女子大学附属心理教育相談所紀要, 9, 59-69.
65. 友田不二男　1997　傘寿を祝われて　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 16, 103-108.
66. 友田不二男　1999　巻頭私言　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 17･18合併号, 4-5.
67. 友田冨美　1999　44年を回顧して　日本カウンセリングセンター「カウンセ

リング研究」, 17･18合併号, 74-77.
68. 漆野陽子　2013　吉本栄子さんのグループに参加して　カウンセリング, 45(2), 25-28.
69. 藁品好恵　2013　小林秀子さんのグループに参加して　カウンセリング, 45(2), 14-16.
70. 山口ゆき　1997　ご挨拶 傘寿を迎えられた友田先生　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 16, 1.
71. 柳川 実　2007　悼惜　日本カウンセリング･センター「カウンセリング研究」, 23, 20-23.
72. 吉本栄子　2013　カール・ロジャーズに学んで―私のカウンセリング―　カウンセリング, 45(2), 23-25.
73. 吉田光子　1997　「モモ」に出合って　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 16, 101-102.
74. 全日本カウンセリング協議会出版部編　2013　特集：第19回二級カウンセラー研修会　カウンセリング, 45(2), 1-49.
第19回カウンセラー二級研修会
理事長代理 開会のあいさつ（岡村達也）
一級カウンセラー資格取得者によるミニ講演（石井要子）
二級カウンセラー資格取得者による体験発表
カール・ロジャーズに学んで（小林秀子）
小林グループに参加して（藁品好恵）
箱庭療法で自身を知る（広瀬拝子）
広瀬グループに参加して（濱田はるみ）
カール・ロジャーズに学んで（吉本栄子）
吉本グループに参加して（漆野陽子）
講演：認知行動療法とマインドフルネス（越川房子）
75. 全日本カウンセリング協議会出版部編　2013　第19回二級カウンセラー研修会　カウンセリング, 45(2), 1-3.

C.学会発表

1．諸富祥彦　2004　何が人を癒すのか：心理療法の根底にあるもの　第36回日本心身医学会近畿地方会プログラム

D.翻訳

〔該当文献なし〕

E.海外文献紹介

〔該当文献なし〕

F.書評

〔該当文献なし〕

第Ⅱ部：ベーシック・エンカウンター・グループ

「第Ⅱ部：ベーシック・エンカウンター・グループ」には関連文献のうち、ベーシック・エンカウンター・グループ、パーソンセンタード・アプローチなどの来談者中心のオリエンテーションにもとづくグループ・アプローチ、「ファシリテーター」「グループ・プロセス」などの基礎概念、歴史、人物等が論じられているものを収録した[2]。

2014年の概要は次のとおりである。「A.書籍」は１本で、単行本であった。「B.研究論文」は９本であった。「C.学会発表」は14本であった。そのうち４つがシンポジウムであった。「D.翻訳」はなかった。「E.海外文献紹介」はなかった。「F.書評」は１本であった。

2014年における「ベーシック・エンカウンター・グループ」の特徴は、PCAグループに関する単行本（A-1）が刊行されたこと、学会でのグループ・アプローチの交流を目的としたシンポジウム（C-6, C-7, C-8）が開催されたことであろう。

A-1は、PCAグループを提唱してきた村山氏によるPCAグループの書籍である。PCAグループについての実践や研究は、これまでも学会発表や研究論文でまとめられてきたが、単行本としてはこの書籍が初めてである。理論、実践、研究それぞれの視点からPCAグループが紹介されており、その特徴を知るために役立つ良書である。

C-6, C-7, C-8は日本性心理学会第33回大会の自主企画である。この大会のテーマが「グループの可能性と広がり」であり、エンカウンター・グループを含むグループ・アプローチの交流に関わるシンポジウムが多く開催された。C-6は、エンカウンター・グループ、集団精神療法、ラボラトリー方式の体験学習の対話、C-7, C-8はグループ体験の交流を目的に開催された。グループがメンバー間の対話によって発展していくことと同様、実践者の対話、各種グループの対話はエンカウンター・グループの発展のためにも重要な営みといえよう。

なお、2014年は「心理臨床学研究」に１本（B-9)、「人間性心理学研究」に１本（F-1)、関連文献が掲載されている。

A.書籍

1．村山正治編著　2014 「自分らしさ」を認めるPCAグループ入門―新しいエンカウンターグループ法―　創元社

---

[2] なお、体験過程療法に特化したグループ・カウンセリングは、第Ⅲ部へ収録されている。

第Ⅰ部　理論編

第1章　PCAグループの理論と実際（村山正治）

第2章　PCAグループの原点と発想（村山正治）

第3章　ファシリテーター論（村山正治）

第4章　PCAグループの現状と今後の展望（村山正治）

第II部　実践編

第5章　スクールカウンセラーが学校に展開した事例（黒瀬まり子）

第6章　大学入学初期の導入事例（木村太一・相原誠・村山正治）

第7章　大学１年次演習科目への導入の試み（本山智敬）

第8章　学部生・院生・教員の連携による大学学部教育への導入の事例（相澤亮雄）

第9章　参加困難な事例へのファシリテーターによる支援の実際（鎌田道彦・村山正治）

第10章　PCAグループにおける「メンバーズセッション」の意義（白井祐浩・木村太一・村山正治）

第III部　実証研究編

第11章　PCAグループによる自己肯定・対人不安の軽減・共感の増大（鎌田道彦）

第12章　PCAグループ的視点から見た学級集団形成尺度の作成（白井祐浩）

第13章　PCAグループによるダイバーシティモデルの学級集団の形成（白井祐浩）

第14章　テキストマイニング法によるPCAグループの効果の測定（杉浦崇仁）

第15章　PCAグループのセッションの意味の分析―体験感想文を手掛かりに（渡辺 元・杉浦崇仁・村山正治）

第IV部　資料編

あとがき（村山正治）

B.研究論文

1．広瀬寛子　2014　医療者に対するサポート：デスカンファレンスとエンカウンターグループ　がん看護, 19(4), 385-388.

2．紀 日奈子　2014　九州部会活動報告：エンカウンターグループの参加者からの声　日本人間性心理学会ニュースレター, 81, 6.

3．三浦直樹　2014　エンカウンター・グループにおけるエクササイズに関する一考察　福岡医療福祉大学紀要, 11, 33-39.

4．野島一彦　2014　エンカウンター・グループのファシリテーション　カウンセリング, 46(1), 33-50.

5．野島一彦・坂中正義　2014　わが国の「集中的グループ経験」と「集団精神療法」に関する文献リスト（2013）　跡見学園女子大学附属心理教育相談所紀要, 10, 3-25.
6．野島一彦・下田節夫・高良 聖・高橋紀子　2014　グループの「構成」と「構造」―エンカウンターグループとサイコドラマの対話―　跡見学園女子大学附属心理教育相談所紀要, 10, 27 37.
7．酒井玲子　2014　E.G.と心気功に参加して　日本グロースセンター「グロース」, 147.
8．坂中正義　2014 「聴くこと」による自己理解　セルフ《自立》カウンセリング研究所所報「白樺」, 71,2.
9．鈴木研司・平山栄治　2014　エンカウンター・グループにおける沈黙とグループ・プロセスについて　心理臨床学研究, 32(4), 472-482.

C.学会発表

1．広瀬寛子・野村喜三枝・宮本沙織　2014　遺族のサポートグループにおけるファシリテーターとしての立ち位置とは　日本人間性心理学会第33回大会プログラム・発表論文集, 136-137.
2．石田妙美・柘植順子・駒米勝利　2014　大学生のベーシック・エンカウンター・グループ体験が、その後にあたえる影響―第1報 養護教諭志望学生におけるBEG合宿体験―　日本人間性心理学会第33回大会プログラム・発表論文集, 188.
3．金子周平　2014　看護学生を対象としたラージ・グループの展開の特徴と自己一致の促進　日本人間性心理学会第33回大会プログラム・発表論文集, 98-99.
4．三國牧子　2014　ベーシック・エンカウンターグループの構成を考える　日本人間性心理学会第33回大会プログラム・発表論文集, 56-57.
5．皆元 司　2014　合宿型グループのワーク体験が自他の認知と不安に与える影響の検討　日本人間性心理学会第33回大会プログラム・発表論文集, 124-125.
6．日本人間性心理学会（第33回）2014　自主企画：グループ臨床体験を語り合う集い　日本人間性心理学会第33回大会プログラム・発表論文集, 32-33.
　企画者（野島一彦）
　司会者（高橋紀子・岡村達也）
　話題提供者（下田節夫・藤 信子・津村俊充）
　指定討論者（坂中正義・金子周平）
7．日本人間性心理学会（第33回）2014　自主企画：グループ体験を語ろう(1)
　日本人間性心理学会第33回大会プログラム・発表論文集, 40-41.
　企画者（阿津川令子）

話題提供者（阿津川令子・角 隆司・船曳奈央・梅井 茜・須藤亜弥子）

8．日本人間性心理学会（第33回）2014　自主企画：グループ体験を語ろう(2)
日本人間性心理学会第33回大会プログラム・発表論文集, 48-49.
企画者（角 隆司）
話題提供者（角 隆司・船曳奈央・梅井 茜・須藤亜弥子・阿津川令子）

9．日本心理臨床学会（第33回秋季大会）2014　自主シンポジウム：グループ・アプローチを用いた心理療法研修プログラムの展開　日本心理臨床学会第33回秋季大会発表論文集, 615.
企画者（平山栄治）
司会者（富田悠生）
話題提供者（平山栄治・富田悠生・鈴木潤也・鈴木研司）
指定討論者（岡村達也・濱田康子）

10. 新里侑那　2014　ファシリテーターがベーシック・エンカウンター・グループを研究すること　日本人間性心理学会第33回大会プログラム・発表論文集, 196.

11. 野島一彦　2014　ワークショップ：３タイプのエンカウンター・グループ体験に触れる　日本学生相談学会第32回大会プログラム

12. 杉浦崇仁・木村太一・白井祐浩・北田朋子・村山正治　2014　PCAグループにおけるC.R. Rogersの3条件の検討及び自己肯定感の変化についての考察　日本人間性心理学会第33回大会プログラム・発表論文集, 92-93.

13. 宇都宮淳子　2014　障碍を持つ子供の母親への支援―PCAGIP法を使ったグループワーク―　日本心理臨床学会第33回秋季大会発表論文集, 173.

14. 吉延 創　2014　ゲシュタルト療法を取り入れたエンカウンターグループの実践　日本人間性心理学会第33回大会プログラム・発表論文集, 158-159.

D.翻訳

〔該当文献なし〕

E.海外文献紹介

〔該当文献なし〕

F.書評

1．田畑 治　2014「坂中正義　2012『ベーシック・エンカウンター・グループにおけるロジャーズの中核３条件の検討―関係認知の視点から―』風間書房」人間性心理学研究, 31(2), 241-245.

付：同リスト（～2013）
「第Ⅱ部：ベーシック・エンカウンター・グループ」の追録

A.書籍

〔該当文献なし〕

B.研究論文

1．児玉龍治　2013　大学院生に対するファシリテーター研修グループの試み　龍谷大學論集, 481, 8-25.

2．松浦光和･清水幹夫　2013　Basic Encounter Group参加者の所感の分類(II) : ファシリテーターについて　宮城學院女子大學研究論文集, 116, 27-38.

3．本山智敬　2012　高校生を対象としたエンカウンター・グループの効果：参加者の個人プロセスとの関連から　福岡大学研究部論集B（社会科学編 5）, 35-44.

4．野島一彦・高田加奈子・陳野畑・土田裕貴・中野 愛・野口恵美　2012 「コラボレーション方式VI」による エンカウンター・グループの試み―段階的に非構成方式に近付けることによるファシリテーター養成について―　九州大学心理学研究, 13, 179-189.

5．鈴木潤也　2012　エンカウンター・グループにおける個人の体験過程と被援助志向性に関する一考察―グループにおける個人の体験過程の中で被援助志向性が生起するプロセスについて―　青山心理学研究, 12, 35-44.

C.学会発表

〔該当文献なし〕

D.翻訳

〔該当文献なし〕

E.海外文献紹介

〔該当文献なし〕

F.書評

〔該当文献なし〕

第Ⅲ部：体験過程療法・フォーカシング

「第Ⅲ部：体験過程療法・フォーカシング」には関連文献のうち、体験過程療法やフォーカシング、フォーカシング指向心理療法、「体験過程」「フェルトセンス」「シフト」などの基礎概念、歴史、人物等が論じらているものを収録した。

2014年の概要は次のとおりである。「A.書籍」は７本であった。そのうち２つが単行本であった。「B.研究論文」は34本であった。「C.学会発表」は24本であった。そのうち７つがシンポジウムであった。「D.翻訳」は６本であった。そのうち２

つが単行本であった。「E.海外文献紹介」はなかった。「F.書評」は１本であった。

2014年における「体験過程療法・フォーカシング」の特徴は、D-2に代表されるような臨床実践に焦点を当てた文献が多く刊行されたこと、多くのシンポジウムが開催されたこと（C-12, C-13, C-14, C-15, C-16, C-17, C-18）であろう。

D-2は、コーネル氏による書籍の飜訳である。タイトル通り、臨床実践におけるフォーカシングがテーマである。2014年はこれに限らず、臨床実践におけるフォーカシングの文献が多く刊行されている（B-9, B-15など）。こういった内容の書籍や研究論文が増加していることは、心理臨床におけるフォーカシングが着実に展開していることの傍証といえよう。

一方、シンポジウムで取り扱っているものは、「絵によるフォーカシング（C-12, C-13）」「ミニマムTAE（C-14）」「にほんごフォーカシング（C-15）」「コミュニティ・ウェルネス・フォーカシング（C-16）」「フォーカシングによるスーパーバイザー体験（C-17）」「こころの天気（C-18）」と幅広い。こちらはフォーカシングの裾野の広さを表していよう。

これらから、臨床実践での着実な展開と共に、様々な領域での様々なフォーカシングの発展が確認できる2014年の動向がうかがえる。

なお、2014年は「心理臨床学研究」に５本（B-15, B-16, B-17, B-21, F-1）、「人間性心理学研究」に３本（B-9, B-25, B-28）、関連文献が掲載されている。「体験過程療法・フォーカシング」の文献は、日本フォーカシング協会ニューズレター「The Focuser's Focus」にコンスタントに発表されている。

A.書籍

1．池見 陽　2014　池見 陽先生がクリエイトするフォーカシングの基礎と展開（DVD）チーム医療

2．村田 進　2014　創作と癒し―ヴァージニア・ウルフの体験過程心理療法的アプローチ―　コスモス・ライブラリー

序論　闇の核心を求めて

第1部　V.ウルフ『ダロウェイ夫人』を中心に

第1章　ヴァージニア・ウルフの創作と体験過程について―ダロウェイ夫人』から『灯台へ』まで―

第2章　『ダロウェイ夫人』概論―Mrs. Dalloway's Character Problem―

第2部　V.ウルフ『灯台へ』を中心に

第3章　ヴァージニア・ウルフ『灯台へ』における過去志向について―解釈学的見方から―

第4章　文学と心理学の接点から―V.ウルフ『灯台へ』再考―

第3部　V.ウルフ『歳月』を中心に

第5章　『歳月』とウルフの体験様式について

第4部　発展研究　創作体験を中心に

第6章　「灯台へ」創作体験の面接への適用について

第7章　禅マンダラ画枠づけ創作体験法の開発とその心理療法的構について―体験過程から見た心理的回復過程の中心概念の研究―

結論　本論の目的・仮説・定義・方法と結果

資料編

3．諸富祥彦　2014　ユージン・ジェンドリン①～②　諸富祥彦編「カウンセリング/臨床心理学を学ぶ人のための伝説のセラピストの言葉」コスモス・ライブラリー, 168-171.

4．村里忠之　2014　ユージン・ジェンドリン③～⑦　諸富祥彦編「カウンセリング/臨床心理学を学ぶ人のための伝説のセラピストの言葉」コスモス・ライブラリー, 172-181.

5．大澤美枝子　2014　アン・ワイザー・コーネル①～⑤　諸富祥彦編「カウンセリング/臨床心理学を学ぶ人のための伝説のセラピストの言葉」コスモス・ライブラリー, 196-197.

6．末武康弘　2014　ユージン・ジェンドリン⑧～⑭　諸富祥彦編「カウンセリング/臨床心理学を学ぶ人のための伝説のセラピストの言葉」コスモス・ライブラリー, 182-195.

7．上嶋洋一　2014　ユージン・ジェンドリン⑮　諸富祥彦編「カウンセリング/臨床心理学を学ぶ人のための伝説のセラピストの言葉」コスモス・ライブラリー, 196-197.

B.研究論文

1．土井晶子　2014　連載企画：フォーカシングのいろいろ「ホールボディ・フォーカシングとわたし」 The Focuser's Focus, 16(4), 3-4.

2．浜田千晴　2014　年に一度のインタラクティブ・フォーカシングのワークショップに参加して　The Focuser's Focus, 17(2), 6.

3．日笠摩子　2014 「フォーカシング・インターナショナル」始動！　The Focuser's Focus, 17(2), 11.

4．堀尾直美・佐々木裕人・中川温恵　2014　ジェンドリンのDVDを観る会～ジーンに祝福を伝える一ヶ月 'Celebrate Gene Month'Tokyo 開催報告　The Focuser's Focus, 16(4), 7-9.

5．保坂芳子　2014　第三回JCFAステップアップワークショップに参加して The Focuser's Fo-cus, 17(1), 8.

6．池見 陽　2014　フォーカシングの源流（上）―池見 陽さん、札幌ワークショップで語る―　The Focuser's Focus, 17(3), 5-7.

7．伊藤研一　2014　フォーカシングによるパラレルプロセスの気づき：スーパーバイザー自身の体験の吟味　学習院大学「人文」, 12, 227-237.

8．河﨑俊博　2014　Eugene Gendlinの理論及び実践に関する研究動向 心理臨

床学研究と人間性心理学研究を中心に　関西大学カウンセリングルーム紀要, 5, 19-27.
9．小泉隆平　2014　問題の核心にあるテーマに向かい合えず、そのテーマについて語れないでいた女性との面接過程―“Thinking About”とノートテイキングを用いて―　人間性心理学研究, 32(1), 45-56.
10. 小泉隆平　2014　クリアリング・ア・スペースの技法としての"Thinking About"についての一考察―クライエントが向き合いにくい問題を面接で扱うために―　京都教育大学紀要, 124, 87-99.
11. 松村太郎・古澤泰江　2014　追悼 天羽和子さん　The Focuser's Focus, 16(4), 9-10.
12. 松村太郎・小松真佐子・三木健郎　2014　秋のフォーカシングフェスタ　The Focuser's Focus, 16(4), 5-7.
13. 宮下武二郎　2014　インタラクティブ・フォーカシングは若さの秘訣　The Focuser's Focus, 17(2), 5.
14. 村山正治　2014　講演：村山正治、Gendlinを語る　東亜大学大学院総合学術研究科「心理臨床研究」, 14, 3-18.
司会者・企画者（桑野浩明・桑野裕子）
15. 中村博之　2014　抑うつ的な不登校男子高校生に対して相互交流を活用した体験過程療法の事例　心理臨床学研究, 31(6), 927-938.
16. 中谷隆子・杉江 征　2014　日常的フォーカシング態度尺度の開発およびその信頼性・妥当性の検討―内的プロセスモデルの検証―　心理臨床学研究, 32(2), 250-260.
17. 中山英和　2014　クライエントの体験変容における、クライエント自身の身体感覚が果たす機能に関する一考察　心理臨床学研究, 32(1), 28-38.
18. 野田長生　2014　フォーカシングをベースにした催眠療法　The Focuser's Focus, 17(3), 10-11.
19. 小田大輔　2014　星占いを使ったフォーカシング～安全安心なセルフアストロロジーを目指して～　The Focuser's Focus, 17(3), 4.
20. 岡村心平　2014　関西部会活動報告：なぞかけフォーカシング・ワークショップ　日本人間性心理学会ニュースレター, 81, 7.
21. 押江 隆　2014　問題意識性とフォーカシング的態度、自己実現との関連の検討　心理臨床学研究, 32(4), 483-490.
22. 小山孝子　2014　子育て中の親を支える活動から考える　The Focuser's Focus, 17(3), 7-9.
23. 流 一世　2014　連載企画：ミニミニ実践報告「心の中の鬼を見つけよう」　The Focuser's Focus, 16(4), 2-3.
24. 芝田淳子　2014　2013年度ウィークロングに参加して　The Focuser's Focus, 16(4), 9.

25. 末武康弘　2014　パーソンセンタード／フォーカシング指向セラピーからみた中核条件の意義　人間性心理学研究, 32(1), 13-17.
26. 田口 純　2014　インタラクティブ・フォーカシング（以下、IF）研修会参加の感想　The Focuser's Focus, 17(2), 6-7.
27. 高須賀忠雄　2014 「年に一度のインタラクティブ・フォーカシング」のWS参加者の感想　The Focuser's Focus, 17(2), 4-5.
28. 田村隆一　2014　かすかな信頼感―パーソンセンタードの視点と体験過程の真正性―　人間性心理学研究, 31(2), 223-232.
29. 田村隆一　2014　連載企画：フォーカシングのいろいろ 夢フォーカシング The Focuser's Fo-cus, 17(1), 5-7.
30. 田邊 裕　2014　フォーカシングアドバンス・フォローアップに参加して The Focuser's Focus, 17(3), 11.
31. 土江正司　2014　フェルトセンスとマインドフルネス　The Focuser's Focus, 17(3), 9-10.
32. 山田絵理香　2014　臨床心理士を目指す大学院生さんたちとともにフォーカシング　The Focus-er's Focus, 17(1), 4-5.
33. 矢野キエ　2014　子どもとフォーカシング　The Focuser's Focus, 17(2), 7-8.
34. 安川恵美　2014　インタラクティブ・フォーカシング参加感想　The Focuser's Focus, 17(2), 5.

C.学会発表

1．浅田くに・白岩紘子　2014　間主体過程の検討―体験共有から自他区分成立までの15年間―　日本人間性心理学会第33回大会プログラム・発表論文集, 144-145.
2．日笠摩子・中村和徳　2014　コミュニティ・ウェルネス・フォーカシングの日本への導入の効果(1)―講演・ワークショップの実施とその満足度・理解度の検討―　日本人間性心理学会第33回大会プログラム・発表論文集, 62-63.
3．石井紀子　2014　フォーカシングの精神看護学教育への意義と新たな知見　日本人間性心理学会第33回大会プログラム・発表論文集, 195.
4．石倉 篤　2014　Tグループにおける他者との関わりを通した在り方の変容―自己理解・受容時の体験過程―　日本人間性心理学会第33回大会プログラム・発表論文集, 86-87.
5．伊藤義美　2014　大会準備委員長講演：私とカウンセリング―エンカウンター・グループとフォーカシングを中心に―　日本カウンセリング学会第47回大会発表論文集, 18.
6．河野達也　2014　フォーカシング的態度に関する研究―主観的幸福感とうつ傾向との関連から―　日本人間性心理学会第33回大会プログラム・発表論文集, 162-163.

7．小松原智子・矢野キエ　2014　自己表現を豊かにする「漢字フォーカシング」の活用　日本人間性心理学会第33回大会プログラム・発表論文集, 177.
8．松本 剛　2014　学校教育における身体感覚の概念化に関する実習の検証　日本カウンセリング学会第47回大会発表論文集, 115.
9．村里忠之　2014　臨床によって臨床を創る―臨床からの概念形成―　日本人間性心理学会第33回大会プログラム・発表論文集, 78-79.
10. 村田 進　2014　体験過程尺度から見た重症心因性ＡＤの回復過程における「間」と推進のプロセス　日本人間性心理学会第33回大会プログラム・発表論文集, 140-141.
11. 中村和徳　2014　フォーカシングの効果に関するPAC分析による質的研究　日本人間性心理学会第33回大会プログラム・発表論文集, 102-103.
12. 日本カウンセリング学会（第47回大会）2014　自主企画：ミニ・ワーク：絵によるフォーカシング？―リラックスとからだの感じで描く体験の場―　日本カウンセリング学会第47回大会発表論文集, 66.
　企画者（春日作太郎）
　アドバイザー（イケダ自然体操）
　コメンテーター（村久保雅孝）
13. 日本人間性心理学会（第33回）2014　自主企画：「絵によるフォーカシング」とからだ―竹内レッスンのからだほぐしとイケダ自然体操による比較検討の為の体験の場です―　日本人間性心理学会第33回大会プログラム・発表論文集, 30.
　企画者（春日作太郎）
14. 日本人間性心理学会（第33回）2014　自主企画：ミニマムTAE（Thinking At the Edge）　日本人間性心理学会第33回大会プログラム・発表論文集, 36.
　企画者（得丸智子・笹田晃子）
　話題提供者（青木桂子・金持 桂子・宮澤寛幸・阿部滋子）
　指定討論者（村里忠之）
15. 日本人間性心理学会（第33回）2014　自主企画：「にほんごフォーカシング」から「にほんのフォーカシング」について考える　日本人間性心理学会第33回大会プログラム・発表論文集, 42-43.
　企画者（岡村心平・前出経弥）
　話題提供者（押江 隆・押岡大覚）
16. 日本人間性心理学会（第33回）2014　自主企画：コミュニティ・ウェルネス・フォーカシングの実践と広がり　日本人間性心理学会第33回大会プログラム・発表論文集, 44-45.
　企画者（日笠摩子・堀尾直美）
　話題提供者（寺田道夫・小嶽久美子・小池順子・佐藤文彦）
　指定討論者（白岩紘子）

17. 日本人間性心理学会（第33回）2014　自主企画：フォーカシングによるスーパーバイザー体験の吟味　日本人間性心理学会第33回大会プログラム・発表論文集, 50-51.
　発表者（伊藤研一・小林孝雄）
　指定討論者（吉良安之）
18. 日本心理臨床学会（第33回秋季大会）2014　自主シンポジウム：「こころの天気」描画法の臨床的活用の可能性（1）―開発過程からみた活用の多様性―　日本心理臨床学会第33回秋季大会発表論文集, 633.
　企画者（土江正司・足立智昭）
　司会者（足立智昭）
　話題提供者（上薗俊和・奥井智一朗・土江正司）
　指定討論者（内田利広）
19. 永野浩二　2014　クライエントのSelf in presenceを促進するセラピストの関わり　日本人間性心理学会第33回大会プログラム・発表論文集, 84-85.
20. 押江 隆・大塚聡介　2014 「体験過程流箱庭療法」開発の試み　日本心理臨床学会第33回秋季大会発表論文集, 546.
21. 酒井久実代　2014　感情プロセスの言語化と感情調節および反芻―省察との関連性の検討―　日本人間性心理学会第33回大会プログラム・発表論文集, 156-157.
22. 佐藤真理奈・田村英恵　2014　会話場面での繰り返しの効果が体験過程の推進へ及ぼす影響　日本カウンセリング学会第47回大会発表論文集, 108.
23. 田中秀男　2014　フォーカシングはどこから来たのか　日本人間性心理学会第33回大会プログラム・発表論文集, 64-65.
24. 山﨑 暁　2014　フォーカシング指向心理療法の立場からみた内的発達―中年期女性との面接過程でみられた対人関係とその反復―　日本人間性心理学会第33回大会プログラム・発表論文集, 100-101.

D.翻訳

1. Cornell, A.W　1994　The Focusing Student's Manual. Focusing Resources., Cornell, A.W　1993　The Focusing Guide's Manual. Focusing Resources.（村瀬孝雄監訳 大澤美枝子・日笠摩子訳　2014　フォーカシング入門マニュアル/ガイドマニュアル［新装版］金剛出版）
　フォーカシング入門マニュアル
　　第１部　フォーカシング
　　第２部　傾聴（リスニング）
　　第３部　フォーカシングを妨げるもの
　　第４部　フォーカシングの練習
　　第５部　上級の傾聴技法

第６部　上級のフォーカシング

フォーカシングガイド・マニュアル

第１部　ガイディングの一般原則

第２部　セッションの進み方（段階をおって）

第３部　妨害を乗り越える手助け

第４部　特殊な場合

第５部　初めての人をガイドする場合

2．Cornell, A.W. 2014 Focusing in Clinical Practice: The Essence of Ghange. W. W. Norton & Company.（大澤美枝子・木田満里代・久羽 康・日笠摩子訳 2014 臨床現場のフォーカシング―変化の本質―　金剛出版）

序章 ある瞬間への扉

１章 変化の本質

２章 場の設定 クライアントのセッションにフォーカシングを使う準備

３章 フェルトセンスを認識し、育む

４章 クライアントのフェルトセンス形成を援助する

５章 クライアントの強い自己を育成する フェルトセンスのための本質的環境

６章 さらに深く フェルトセンスを促進する

７章 より難しいタイプのクライアントとの取りくみ

８章 トラウマ、嗜癖、抑うつへのフォーカシング

９章 フォーカシングと他の治療様式の混合

10章 セラピストのためのフォーカシング

3．フレッツァ, E.（平 和俊訳）2014　シリーズ：世界のフォーカシング（4）アルゼンチンにおけるフォーカシング　The Focuser's Focus, 17(1), 9-10.

4．フレマンヴィル, M（志賀悠香訳）2014　シリーズ：世界のフォーカシング（5）カナダ・ケベック州でのフランス語圏のフォーカシング　The Focuser's Focus, 17(2), 9-11.

5．グルメ, O.（大迫久美恵訳）2014　シリーズ：世界のフォーカシング（6）ベルギー＆ルクセンブルクにおけるフォーカシングの発展とホールボディ・リーダーシップの物語　The Focuser's Fo-cus, 17(3), 11-13.

6．ボイゲレアス, R.（矢野キエ訳）　2014　シリーズ：世界のフォーカシング（3）オランダにおけるフォーカシング　The Focuser's Focus, 16(4), 10-12.

E.海外文献紹介

〔該当文献なし〕

F.書評

1．福盛英明　2014 「村山正治監修 日笠摩子・堀尾直美・小坂淑子・高瀬健一編　2013『フォーカシングはみんなのもの―コミュニティが元気になる31の

方法―』創元社」心理臨床学研究, 32(2), 269-270.

付：同リスト（～2013）
「第Ⅲ部：体験過程療法・フォーカシング」の追録

A.書籍

1．伊藤研一　2013　フォーカシングにおける見立てと介入をつなぐ工夫　乾吉佑編『心理療法の見立てと介入をつなぐ工夫』金剛出版
2．大澤美枝子　2011　内側の自分とつきあう　諸富祥彦編『人生にいかすカウンセリング―自分を見つめる　人とつながる―』有斐閣, 231-237.

B.研究論文

1．遠藤可奈　2013　イラショナル・ビリーフと体験過程尊重の態度との関連について　創価大学大学院紀要, 35, 189-215.
2．池見 陽　2009　Eugene Gendlinの心理療法論：体験・表現・理解が実践される体験過程　ディルタイ研究, 20, 45-62.
3．河野俊明　2013　小学校授業におけるフォーカシングやシェアリングを取り入れた絵本の読み聞かせ活動の開発（2）―集団フォーカシングの効果の検証―　読書科学, 55(1・2), 13-23.
4．河野俊明　2013　小学校授業におけるフォーカシングやシェアリングを取り入れた絵本の読み聞かせ活動の開発（3）―実験授業（RFSM Ⅰ）マニュアル化の検証―　読書科学, 55(3), 69-77.
5．平河内健治　1999　カウンセリングと言語学－夫れ言は吹に非ざる也－　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 17・18合弁号, 48-49.
6．越山 綾　2013　セラピストフォーカシング法の意義の検証 ― 吉良（2010）の意義との比較によって―　関西大学臨床心理専門職大学院紀要「サイコロジスト」, 3, 31-39.
7．前出経弥　2011　漢字一字で言い表す フォーカシングワークを通して　関西大学臨床心理専門職大学院紀要「サイコロジスト」, 1, 51-59.
8．岡村心平　2013　なぞかけフォーカシングの試み―状況と表現が交差する“その心”―　関西大学臨床心理専門職大学院紀要「サイコロジスト」, 3, 1-10.
9．末武康弘　2013　パーソンセンタード/フォーカシング指向セラピーにおいて生起するプロセスの理論化の試み ―TAEを用いた質的分析から―　現代福祉研究, 13, 23-45.
10．冨宅左恵子　2013　大学院生同士による継続したセラピスト・フォーカシングセッションの意義　関西大学臨床心理専門職大学院紀要「サイコロジスト」, 3, 31-39.

C.学会発表

1．村田 進　2013　高3D男のアトピー性皮膚炎からの回復過程―体験過程から見て―　人間主義心理学会第35回研究集会発表論文集, 4-5.

D.翻訳

1．Ikemi, A. 2013 You can inspire me to live further: Explicating pre-reflexive bridges to the other. Interdisciplinary Handbook of the Person-Centered Approach.（pp.131-140）. Eds. J. H. D. Cornelius-White, R. Motschnig-Pitrik, M. Lux. New York, Springer.（筒井優介・橋場優子・宮本一平訳 池見陽監修 2013 他者への反省以前的な架け橋を言い表す：僕が生き進むことを君は促してくれるのか　関西大学臨床心理専門職大学院紀要, 3, 11-20.）

E.海外文献紹介

〔該当文献なし〕

F.書評

〔該当文献なし〕

第Ⅳ部：その他

「第Ⅳ部：その他」には関連文献のうち、親子関係・家庭生活、教育・学習（学生中心の教授法や人間中心の教育など）等のパーソンセンタードのオリエンテーションの広がりやその基礎概念、歴史、人物等、また、表現療法などのこれまでの3部には分類されないものを収録した。

2014年の概要は次のとおりである。「A.書籍」は１本で、単行本であった。「B.研究論文」は５本であった。「C.学会発表」は3本であった。「D.翻訳」は1本であった。「E.海外文献紹介」はなかった。「F.書評」はなかった。

2014年における「その他」の特徴は、フォーカジングをベースとした子育て支援について紹介したA-1が刊行されたことであろう。

A-1は、筆者らのフォーカジングをベースとした子育て支援の実践を紹介したものであるが、子育て支援の関係者への子育て支援の実践への示唆も述べられている。フォーカジングの広がりを具体的に示した書籍といえよう。

第Ⅲ部で述べたようにフォーカジングの様々な領域での発展をうかがわせる文献が多数発行されたのが2014年の特徴といえよう。

なお、2013年は「人間性心理学研究」に関連文献が2本（B-1, D-1）掲載されている。

A.書籍

1．石井栄子・小山孝子　2014　フォーカジング指向親向け講座　親子のための

ホット講座　コスモス・ライブラリー

第１章　講座を受けて、ほっとできる子育てに

第２章　では、フォーカジング指向親向け講座に参加してみましょう。

第３章　フォーカジング指向親向け講座を開いてみましょう。

第４章　フォーカジングと照らし合わせてみると

B.研究論文

1．濱中寛之　2014　パーソンセンタード表現アートセラピーにおけるロジャーズの三条件　人間性心理学研究, 32(1), 19-25.

2．ジョーンズ美香　2014　第33回大会口頭発表をふりかえって　日本人間性心理学会ニュースレター, 82, 3.

3．村山正治　2014　PCAGIPセミナー　立命館大学心理・教育相談センター年報, 12, 3-61.

第一部　講演：PCAグループワークの現代的意味―つながり・個人尊重・自分らしさの肯定・ダイバーシティモデルを目指して―

第二部　PCAグループによる夢ワークの体験学習

第三部　「PCAGIP法」のライブセッションPCAグループをベースにした新しい事例検討法

第四部　クロージングセッション

資料　チラシ

4．押江 隆　2014　パーソンセンタード・コミュニティアプローチ　日本心理臨床学会「心理臨床の広場」, 6(2), 20-21.

5．筒井優介　2014　カンバセーション・ドローイングを連続的に行うことの臨床的意義について　関西大学臨床心理専門職大学院紀要, 4, 53-61.

C.学会発表

1．ジョーンズ美香　2014　ディセンタリング・アプローチ―表現アーツセラピーの新たな可能性―　日本人間性心理学会第33回大会プログラム・発表論文集, 134-135.

2．押江 隆・足立芙美・三浦啓子・水戸部準　2014　コミュニティプレイセラピー　日本人間性心理学会第33回大会プログラム・発表論文集, 94-95.

3．筒井優介　2014　カンバセーション・ドローイングにみる人間関係　日本人間性心理学会第33回大会プログラム・発表論文集, 112-113.

D.翻訳

1．オミディアン・パトリシア（平井達也訳）2014 コミュニティの健康のためのフォーカシングと回復力―内側からコミュニティを元気にする―　人間性心理学研究, 31(2), 135-141.

E.海外文献紹介

〔該当文献なし〕

F.書評

〔該当文献なし〕

付：同リスト（～2013）「第Ⅳ部：その他」の追録

A.書籍

〔該当文献なし〕

B.研究論文

1．引土絵未　2013　わが国における治療共同体の可能性―アミティーのエンカウンターグループに学ぶ―　精神科治療学, 28(増刊号）, 77-80.
2．伊東 博・生方 薫　1999　身心一如のニュー・カウンセリングの哲学　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 17・18合弁号, 45-50.
3．中村 泉　2007　四、五分のこと思いだす年の暮　日本カウンセリング・センター「カウンセリング研究」, 23, 59-61.
4．大塚俊博・富田博重・後藤アイ・宮添邦子・安東愛美・隅井寿賀子　2007「私達は大分でこんなことをしています」―大分エンデの会―　日本カウンセリング・センター「カウンセリング研究」, 23, 42-49.
5．押江 隆　2012　相互援助コミュニティの心理臨床モデルに関する実践的研究―パーソンセンタード・アプローチの新たな展開としてのコミュニティアプローチ―　関西大学大学院心理学研究科博士論文
6．高橋幸生　1999　学道の用心　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 17・18合併号, 98-101.
7．友田不二男　1999　易経とカウンセリング　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 17・18合併号, 51-72.

C.学会発表

〔該当文献なし〕

D.翻訳

〔該当文献なし〕

E.海外文献紹介

〔該当文献なし〕

F.書評

〔該当文献なし〕

統計

2014年に発行された文献、及び追録された文献を先述の坂中（2004）に従い分類した。その結果を以前のデータと共にtableに示した。2014年に公刊された関連文献は106篇（「来談者中心療法」40篇、「ベーシック・エンカウンター・グループ」11篇、「体験過程療法・フォーカシング」48篇、「その他」7篇）であった[3]。

よって、これまでに日本で公刊された関連文献は7341篇（「来談者中心療法」3350篇、「ベーシック・エンカウンター・グループ」1765篇、「体験過程療法・フォーカシング」1910篇、「その他」316篇）となった。

お願い

リストに収録した文献の記述上の誤りを見つけられた方、また、該当する文献を執筆された方、もれている文献を御存知の方は、筆者まで御連絡願えれば幸いである。

連絡先　〒466-8673　愛知県 名古屋市昭和区山里町18
南山大学 人文学部　坂中正義
E-mail:sakanaka@nanzan-u.ac.jp
Fax: 052-832-3110（ダイヤルイン）3955

[3] 学会発表は合計に含まれていない。

table　日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する発行文献数（2015.02.20現在）

		50-54	55-59	60-64	65-69	70-74	75-79	80-84	85-89	90-94	95-99	00-04	05-09	2010	2011	2012	2013	2014	合計
来談者中心療法	書籍：単行本	2	**7**	**13**	**35**	14	15	13	9	20	15	8	14	2	1	0	0	1	169
（含：基礎概念）	書籍：章	3	5	9	27	47	43	48	20	111	118	52	35	0	9	30	0	3	560
	論文：特集	0	0	0	1	2	9	19	15	3	11	13	15	2	1	2	1	1	95
遊戯療法も含む	論文：一般	0	5	91	68	67	114	149	229	186	316	347	277	54	46	69	29	26	2073
	翻訳：単行本	1	3	3	8	5	1	3	4	1	0	10	12	2	0	1	1	0	55
	翻訳：章	0	0	41	106	3	6	8	7	6	13	59	1	0	2	2	0	2	256
	海外文献紹介	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	8	0	0	0	1	1	13
	書評	0	0	1	2	0	2	9	4	6	15	13	57	4	1	7	2	6	129
	参考：発表：シンポ	*0*	*0*	*0*	*0*	*0*	*0*	*0*	*1*	*1*	*3*	*9*	9	*1*	*2*	*2*	*4*	*2*	*34*
	参考：発表：一般	*0*	*5*	*28*	*19*	*9*	*16*	*2*	*4*	*18*	*21*	*38*	27	*3*	*7*	*7*	*8*	*20*	*232*
合計（学会発表は除く）		6	20	158	247	138	190	249	288	334	488	504	419	64	60	111	34	40	3350
ベーシック・エンカウンター・グループ	書籍：単行本	0	**1**	0	**1**	0	1	2	1	4	3	2	4	1	2	1	0	1	24
（含：グループカウンセリング）	書籍：章	0	0	1	1	4	19	16	15	30	29	14	4	0	0	10	0	0	143
	論文：特集	0	0	0	0	0	3	0	1	8	1	4	2	0	0	0	0	0	19
	論文：一般	0	0	3	0	37	121	247	206	283	154	216	142	45	21	17	9	9	1510
	翻訳：単行本	0	0	0	0	3	4	2	0	0	1	1	3	0	0	0	0	0	14
	翻訳：章	0	0	0	0	0	1	2	0	1	2	4	4	0	0	0	0	0	14
	海外文献紹介	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
	書評	0	0	0	0	2	0	1	2	13	3	6	7	0	3	1	0	1	39
	参考：発表：シンポ	*0*	*0*	*0*	*0*	*0*	*0*	*0*	*2*	*2*	*1*	*3*	6	*0*	*0*	*1*	*1*	*4*	*20*
	参考：発表：一般	*0*	*0*	*1*	*0*	*28*	*40*	*44*	*54*	*42*	*29*	*45*	55	*10*	*7*	*4*	*10*	*10*	*379*
合計（学会発表は除く）		0	1	4	2	46	149	270	226	339	194	247	166	46	26	29	9	11	1765
体験過程療法	書籍：単行本	0	0	0	1	0	0	2	0	2	8	6	8	2	0	0	1	2	32
フォーカシング	書籍：章	0	0	0	0	2	5	4	5	17	37	18	7	0	2	21	1	5	124
（含：体験過程の基礎概念）	論文：特集	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	5	21	1	0	1	0	0	32
	論文：一般	0	0	0	0	1	24	65	98	130	190	396	343	56	82	83	54	34	1556
	翻訳：単行本	0	0	0	0	0	0	1	1	1	5	5	8	1	0	0	0	2	24
	翻訳：章	0	0	2	5	2	7	8	3	1	5	5	5	0	1	3	4	4	55
	海外文献紹介	0	0	0	0	1	0	0	2	1	1	0	1	0	0	2	0	0	8
	書評	0	0	0	1	0	1	0	5	6	16	21	13	8	5	1	1	1	79
	参考：発表：シンポ	*0*	*0*	*0*	*0*	*0*	*0*	*0*	*0*	*3*	*3*	*6*	6	*3*	*2*	*3*	*2*	*7*	*35*
	参考：発表：一般	*0*	*0*	*0*	*0*	*5*	*11*	*28*	*41*	*41*	*44*	*60*	139	*30*	*22*	*16*	*23*	*17*	*477*
合計（学会発表は除く）		0	0	2	7	6	37	80	115	158	265	456	406	68	90	111	61	48	1910
その他	書籍：単行本	0	0	0	4	2	2	0	0	1	0	1	5	1	1	3	0	1	21
（教育・経営など）	書籍：章	0	0	0	2	0	0	2	0	5	6	3	1	0	0	11	0	0	30
	論文：特集	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	3
	論文：一般	0	0	4	1	6	13	19	10	25	13	44	37	24	11	5	4	5	221
	翻訳：単行本	0	0	0	1	1	0	3	1	0	0	3	1	0	0	1	0	0	11
	翻訳：章	0	0	0	4	1	0	1	0	1	0	9	0	0	0	0	0	1	17
	海外文献紹介	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	書評	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	5	2	0	1	1	2	0	13
	参考：発表：シンポ	*0*	*0*	*0*	*0*	*0*	*0*	*0*	*0*	*0*	*0*	*0*	3	*2*	*1*	*0*	*3*	*0*	*9*
	参考：発表：一般	*0*	*0*	*0*	*6*	*0*	*4*	*0*	*1*	*3*	*1*	*16*	1	*4*	*6*	*3*	*9*	*3*	*57*
合計（学会発表は除く）		0	0	4	13	10	15	26	12	32	19	65	46	26	13	22	6	7	316
総計		6	21	168	269	200	391	625	641	863	966	1272	1037	204	189	273	110	106	7341

注）データは坂中による一連の「日本における『来談者中心療法』及び『体験過程療法』に関する文献リスト」シリーズによった。